

例 言

- 本書は、埼玉県入間郡大井町内に所在する遺跡群の1999年度の発掘調査報告書である。
- 発掘調査および整理作業は、国庫(3,600,000円)、県費(1,800,000円)の補助金の交付を受け、平成11年4月5日から平成12年3月31日まで実施した。
- 調査組織

調査主体者	大井町教育委員会	文化財保護係長	坪田幹男
担当課	生涯学習課文化財保護係	文化財保護係・庶務	高橋偕子
教育長	遠藤正明	文化財保護係・発掘調査担当者	高崎直成・鍋島直久
教育次長	石井忠夫	大井町臨時職員・発掘調査担当者	土本医
生涯学習課長	金子忠弘		
- 本書作成にあたっての作業分担は次のとおりである。

編集：鍋島直久
 執筆：本文・遺構 鍋島直久、縄文土器 今井堯
 挿図割付：高橋けい子 写真図版割付：青山奈保美 土器・陶磁器復元：中田藤子 表作成：植田勢津子
 土器・陶磁器実測：青山奈保美、石垣ゆき子、植田勢津子、須藤さち子、丹治つや子 トレース：小林登喜江
 土器拓影・図版作成：青山奈保美、石垣ゆき子、植田勢津子、須藤さち子、高橋けい子、丹治つや子、中田藤子、山口妙子
 遺構写真：坪田幹男、高崎直成、鍋島直久、土本 医 遺物写真：鍋島直久、青山奈保美
 土器・石器実測の一部を(有)JAWSに委託した。
 また、整理作業全般において日本考古学協会の今井堯氏の援助と協力を得た。
- 各遺跡の調査から報告書刊行にいたるまで下記の諸氏・機関より御指導・ご協力を賜った。(敬称略)
 会田昭明、天ヶ嶋岳、荒井幹夫、石原聡、市丸靖子、内田賢司、岡田憲治、加藤智香子、加藤秀之、梶原勝、
 梶原喜世子、神木繁嘉、國見徹、隈本健介、小出輝雄、駒井和久、桜井信枝、笹森健一、佐藤啓子、島田一郎、
 鈴木仁子、高貝しづ子、高橋京子、田中信、塚田政子、原口雅樹、早坂廣人、松本新八郎、松本富雄、水村孝行、
 柳井章宏、柳沢健司、和田晋治
 埼玉県教育局生涯学習部文化財保護課、東久保土地区画整理組合、大井町立郷土資料館、大井町遺跡調査会、
 (有)文化財COM。
- 発掘調査ならびに整理作業参加者は下記の皆様である。記して厚く感謝の意を表したい。
 〈発掘調査参加者〉(敬称略)
 新井和枝、飯塚泰子、井上晴江、海老原サナエ、大曾根キク子、笠原英子、金子君子、金丸文男、小林こずい、
 酒井昭、佐久間ひろ子、佐藤恵二、篠崎忠三、鈴木英子、鈴木エミ子、関田成美、戸澤竹二、中嶋末子、
 野岡由紀子、林きぬ子、比嘉洋子、福田三枝子、三村美代子、若尾久美子、若林紀美代
 〈整理作業参加者〉(敬称略)
 青山奈保美、石垣ゆき子、伊藤弘一、植田勢津子、小林登喜江、須藤さち子、高橋けい子、丹治つや子、
 中田藤子、福島雅子、山口妙子

凡 例

- 本書の遺構・遺物挿図の指示は以下のとおりである。
 - 縮尺は原則として
 遺構配置図 1 : 300 遺構平面図・遺物出土状況図 1 : 60、1 : 30 炉などの詳細図 1 : 30
 土器実測図 1 : 4 土器拓影図 1 : 3 石器実測図 1 : 3、2 : 3 銭 1 : 1
 - 遺構断面図の水糸高は海拔高を示す。明記していないのは同図版中の前遺構の海拔高に同じ。
 - 遺構図におけるscreen-toneの指示、遺物出土状況のドットの指示。
 攪乱  地山(ローム)  焼土 
 土器 ● 石器 ★ 黒曜石・チャート ▲ 礫 ○
 - 土器断面図は、「網目」が繊維含有、●が雲母粒を含有する縄文土器を表わしている。
 - 土器・陶磁器実測図の中心線が破線の場合は、180度回転させて復元実測したことを示す。
- 住居跡名は、遺跡内の通し番号である。
- 本報告にかかる出土品及び記録図面・写真等は一括して大井町教育委員会生涯学習課に保管してある。

第2表 1999年度埋蔵文化財調査一覧表

	遺跡名	申請地	調査面積㎡	開発面積㎡	原因	調査期間	調査措置
1	亀居遺跡第51地点	亀久保3街区4画地	202	222	個人住宅	11.6.15~11.7.9	教育委員会で本調査
2	亀居遺跡第52地点	亀久保7街区14画地	30	121	個人住宅	12.2.1~12.2.2	試掘調査
3	江川南遺跡第10地点	東久保2街区9・10画地	18	133	個人住宅	11.5.24~11.5.26	試掘調査
4	江川南遺跡第11地点	東久保1—122—2・4	150	465	共同住宅	11.9.20~11.9.27 11.9.28~11.10.15	試掘調査後遺跡 調査会で本調査
5	江川南遺跡第12地点	東久保2街区4・5画地	14	104	個人住宅	11.10.26~11.10.28	試掘調査
6	東久保遺跡第13地点	東久保381—5	10	162	個人住宅	11.11.2	試掘調査
7	東久保遺跡第14地点	東久保18街区3画地	330	823	共同住宅	11.6.29~11.7.16 11.7.19~11.7.29	試掘調査後遺跡 調査会で本調査
8	東久保遺跡第15地点	東久保5街区14~16画地	9	178	個人住宅	11.8.2	試掘調査
9	東久保遺跡第16地点	東久保15街区1~5・32画地	132	334	個人住宅	11.10.1~11.10.6	試掘調査
10	東久保遺跡第17地点	東久保381—5	121	168	個人住宅	11.6.14~11.6.15	試掘調査
11	東久保遺跡第18地点	東久保27街区2画地	409	14,989	小学校グラウンド	11.11.30~11.12.15	試掘調査
12	東久保遺跡第19地点	東久保3街区9・10画地	40	108	店舗併用住宅	11.12.20~11.12.21	試掘調査
13	東久保遺跡第20地点	東久保4街区9画地	234	478	個人住宅	12.2.28~12.3.3	試掘調査
14	東久保遺跡第21地点	東久保18街区14画地	57	114	個人住宅	12.3.23~12.3.28	試掘調査
15	東久保遺跡第22地点	東久保15街区28画地	38	150	個人住宅	12.3.22~12.3.23	試掘調査
16	亀久保堀跡遺跡第21地点	東久保262・263・266	89	232	個人住宅	11.4.19~11.4.22	試掘調査
17	亀久保堀跡遺跡第22地点	東久保5街区7・20画地	40	99	個人住宅	11.6.10~11.6.12	試掘調査
18	亀久保堀跡遺跡第23地点	東久保14街区10画地	260	386	駐車場	11.10.4~12.10.8	試掘調査
19	亀久保堀跡遺跡第24地点	東久保6街区14画地	26	105	個人住宅	11.12.14~11.12.16	教育委員会で本調査
20	東久保西遺跡第8地点	東久保9街区13画地	52	135	個人住宅	11.11.2~11.11.5	試掘調査
21	東久保西遺跡第9地点	東久保14街区1・2・12画地	335	1,074	共同住宅	12.1.28~12.2.9	試掘調査
22	東中学校西遺跡第20地点	東久保39街区1画地	461	900	区画整理	11.6.16~11.7.19	試掘調査
23	東中学校西遺跡第21地点	東久保37街区1~3画地	733	1,311	店舗	11.11.18~11.12.9	試掘調査
24	東中学校西遺跡第22地点	東久保44街区15画地	56	150	個人住宅	12.3.7~12.3.9	試掘調査
25	東久保南遺跡第18地点	東久保48街区4画地	95	202	個人住宅	11.5.14~11.5.18	試掘調査
26	東久保南遺跡第19地点	東久保60街区6画地	188	466	駐車場	11.7.8~11.7.12	試掘調査
27	東久保南遺跡第20地点	東久保49街区1画地	367	1、106	店舗	11.12.22~12.1.15	試掘調査
28	西ノ原遺跡第113地点	大井苗間57・58街区	2,000	2,817	店舗	11.4.5~11.12.14 12.1.6~12.3.13	試掘調査後遺跡 調査会で本調査
29	西ノ原遺跡第114地点	西ノ原194—1	272	676	駐車場	11.8.4~11.8.12	試掘調査
30	西ノ原遺跡第115地点	大井苗間52街区3画地	31	135	事務所	11.9.27~11.9.29	試掘調査
31	西ノ原遺跡第116地点	大井苗間59街区11画地	42	119	個人住宅	11.12.2~11.12.3	試掘調査
32	西ノ原遺跡第117地点	大井苗間199—2番地	42	131	店舗併用住宅	11.12.2~11.12.4	試掘調査
33	中沢前遺跡第18地点	大井苗間1丁目12番地	110	620	店舗併用共同住宅	11.7.21~11.7.28	試掘調査
34	中沢前遺跡第19地点	大井苗間32街区1・9画地	360	1,080	共同住宅	11.7.23~11.7.30	試掘調査
35	中沢前遺跡第20地点	大井苗間33街区1画地	231	374	駐車場	11.11.25~11.11.30	試掘調査
36	中沢前遺跡第21地点	大井苗間32街区4・5画地	19	120	個人住宅	11.11.29~11.11.30	試掘調査
37	神明後遺跡第10地点	苗間298—1	3	44	個人住宅	11.9.16	試掘調査
38	神明後遺跡第11地点	苗間366	97	239	個人住宅	11.10.21 11.10.22~11.10.26	試掘調査後教育 委員会で本調査
39	神明後遺跡第12地点	苗間282—2・5	8	211	共同住宅	12.3.6	試掘調査
40	苗間東久保遺跡第21地点	苗間神明後333—1	95	350	個人住宅	11.8.3~11.8.6	試掘調査
41	浄禅寺跡遺跡第18地点	苗間345—3・4	303	599	個人住宅	11.5.26~11.6.24 11.6.26~11.8.3	試掘調査後教育 委員会で本調査

XIII 浄禅寺跡遺跡の調査

1 遺跡の立地と環境

浄禅寺跡遺跡は、東武東上線ふじみ野駅の東約600m、浄禅寺川の湧水地南側から右岸の台地上に位置する。標高12～14mで現谷底との比高差は約2mを測る。浄禅寺川はさかい川と砂川堀の間を東流し、さかい川に合流する。さかい川はやがて砂川堀に合流して新河岸川へと注ぐ。

周辺の遺跡は北西に神明後遺跡、北側に苗間東久保遺跡が隣接する。本遺跡は1989年に苗間東久保遺跡の一部を浄禅寺川を境に分割して登録した。

遺跡周辺は早くに市街化が進み、また残された畑地も周辺の区画整理の影響で開発が増加している。

2001年3月現在19ヶ所で発掘調査が行なわれ、縄文時代早期の炉穴多数、前期住居跡1軒、中・近世の薬研状の堀や、遺跡名の由来である浄禅寺墓域から墓墳157基、一字一石経約76,000点が出土している。旧苗間村の浄禅寺は江戸時代に建立されたが、幕末に焼失して以来再建されていない。

2 浄禅寺跡遺跡第18地点

(1) 調査の概要

調査は個人住宅建設に伴うもので、原因者より1999年5月20日付けで、「埋蔵文化財事前協議書」が提出された。申請地は遺跡範囲の中央部で、西に傾斜する斜面上に位置し、調査区内での高低差は約1.4mである。周辺の人の話しでは、かつては湧水地から流れ出た水が小川となって、本地点の西側を流れていたそうである。

申請者と協議の結果、遺構の存在確認のため試掘調査を実施することとした。

5月26日から重機による表土除去で、遺構のプランが確認されたため、本調査を実施した。本調査は調査区域内に既存の畑が残っており、また土置き場の関係から1区・2区・3区に分けて行ない、8月3日全ての調査を終了した。

(2) 遺構と遺物

今回の調査で検出した遺構は縄文時代炉穴7基、集石土坑3基、土坑13基、ピット27、溝3本である。



第52図 浄禅寺跡遺跡の地形と調査区 (1/4,000)

① 炉穴

本遺跡では縄文時代早期の炉穴は、今回検出した7基を含め56基を検出している。

今回検出した炉穴の大半は、調査区の中央部から西部、調査区斜面の標高16.6mから16.4mのやや平坦部に位置する。

【炉穴1】 燃焼部のみで平面形は円形を呈し掘り込みをもつ。掘り込みの規模は67×60cm、深さ12.4cm、焼土範囲は不整形で直径約40cmの範囲で広がる。

【炉穴2】 炉穴3と重複し新旧関係は炉穴2が古い。燃焼部のみで、平面形は楕円形を呈し掘り込みをもつ。掘り込みの規模は106×96cm、深さ22.3cm、焼土範囲は不整形で50～80cmの範囲で広がる。

【炉穴3】 炉穴2と重複し新旧関係は炉穴3が新しい。平面形は楕円形を呈し掘り込みをもつ。東側に燃焼部、西側に足場部分が位置する。掘り込みの規模は152×100cm、深さ23.8cm、焼土範囲は不整形で直径約40cmの範囲で広がる。

【炉穴4】 南側は攪乱を受ける。燃焼部のみで平面形は円形を呈し掘り込みをもつ。掘り込みの規模は70×(60)cm、深さ13.6cm、焼土範囲は不整形で直径約45cmの範囲で広がる。

【炉穴5】 今回検出した炉穴の中で最も南東に位置する。燃焼部のみで平面形は楕円形を呈し掘り込みをもつ。掘り込みの規模は(130)×70cm、深さ8.5cm、焼土範囲は不整形で約26～94cmの範囲で広がる。

【炉穴6・7】 炉穴6と炉穴7は重複し、新旧関係は不明である。楕円形状の掘り込みをもち、炉穴6の燃焼部は北東部に、炉穴7の燃焼部は南側に位置する。炉穴6と炉穴7の燃焼部の中間に足場部とみられる部分があるが、どちらに伴うかは不明である。

掘り込みの規模は210×107cm、深さ約10cm、炉穴6の焼土範囲は不整形で32～112cm、炉穴7の焼土範囲は円形で76～62cmの範囲で広がる。

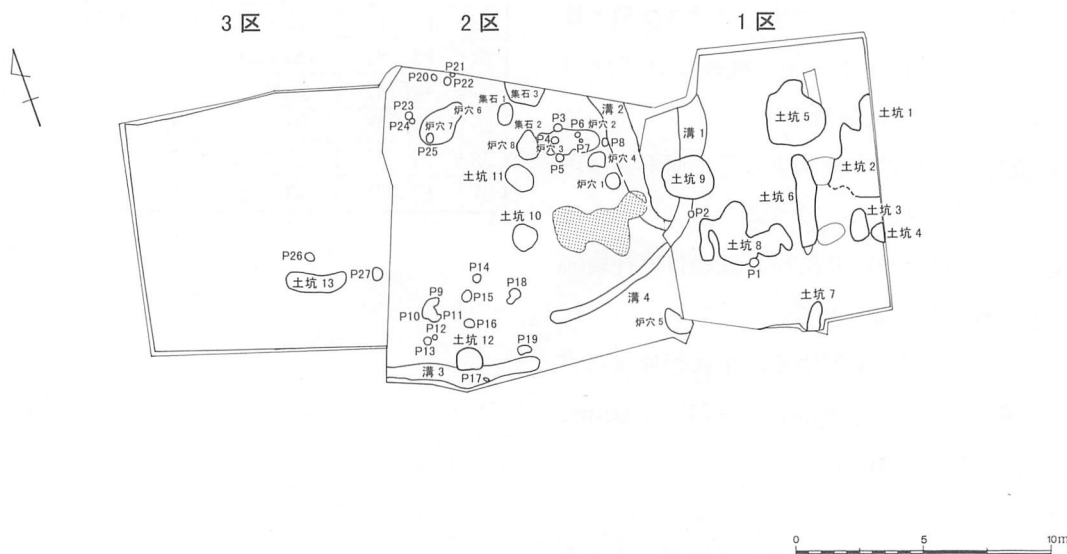
【炉穴8】 炉穴3・集石土坑2と重複し、新旧関係は炉穴3が最も新しく、炉穴8と集石土坑2の関係は不明である。燃焼部のみで、平面形は楕円形を呈し掘り込みをもつ。掘り込みの規模は120×110cm、深さ30.3cm、焼土範囲は不整形で62～40cmの範囲で広がる。

② 集石土坑

今回検出した集石土坑3基は、調査区の中央部で炉穴の集中する部分と隣接する。

【集石土坑1】 集石土坑2と集石土坑3の中間に位置する。土坑プランは柄杓形で長径92×短径60cm、深さは約25cmを測る。礫の分布は直径55～65cmの円形に集中している。土坑の底部が被熱した跡はなく、焼土や炭化物の層もない。

【集石土坑2】 集石土坑の中で最も南側に位置し、炉穴8と重複する。土坑プランは不明で、重複する炉穴8が集石土坑に伴う掘り込みの可能性もある。礫の分布は120～75cmの範囲で礫の集中は密ではない。



第53図 浄禅寺跡遺跡第18地点遺構配置図 (1/300)

【集石土坑3】集石土坑の中で最も北側に位置し調査区外へ延びる。検出部の土坑プランは半円形で長径126×短径76cm、深さは約18cmを測る。礫の分布は直径75～120cmの範囲に集中している。土坑の底部が被熱した跡はなく、焼土や炭化物の層もない。

③土坑

今回の調査で土坑は13基検出したが、近世以降の時期とみられる土坑は土坑1～6と土坑8・9で、その他は縄文時代の時期とみられる。縄文時代の土坑および土坑9については以下のとおりである。

【土坑5】調査区の東部に位置する。平面形態は円形を呈し、断面がオーバーハングするフラスコ型土坑である。規模は上端径2.57～2.27m、底径2.46～2.36m、深さは確認面から1.9mを測る。

【土坑7】調査区の南東部に位置する。平面形態は不整形を呈する。規模は上端140×44cm、底径9×120cm、深さは確認面から15cmを測る。

【土坑9】調査区の中央部に位置する。溝1と重複しており新旧関係は土坑9が古く、覆土の観察では中世～近世と考えられる。

平面形態は楕円形を呈する。規模は上端径2.8～1.7m、底径1.4～0.9m、深さは確認面から86cmを測る。

【土坑10】調査区の中央部に位置する。平面形態は円形を呈し、断面がオーバーハングするフラスコ型土坑である。規模は上端径1.06～1.02m、底径は直径約1.3m、深さは確認面から1.25mを測る。

【土坑11】調査区の中央部に位置する。平面形態は円形を呈し、断面がオーバーハングするフラスコ型土坑である。規模は上端径1.1～1.05m、底径は直径約1.1m、深さは確認面から1.1mを測る。

【土坑12】調査区の中央部に位置する。平面形態は円形を呈し、断面がオーバーハングするフラスコ型土坑である。規模は上端径1.06～0.87m、底径は直径約66cm、深さは確認面から74cmを測る。

【土坑13】調査区の西部に位置する。平面形態は長方形を呈する。規模は上端2.3×0.68m、底径2.1×0.5m、深さは確認面から16cmを測る。

④溝

今回検出した溝は3本で、近世以降の時期とみられる。溝1は断面が「U」字状を呈し円弧状に北側調査

区外へ延びる。

溝2は断面が浅い「U」字状を呈し、北側調査区外へ延びる。

溝3は断面が箱型を呈し、調査区南部で調査区の壁際に延びる。

第17表 浄禅寺跡遺跡第18地点溝一覧表

単位cm

	長さ	上幅	下幅	深さ
溝1	1180	28～204	10～42	5～48
溝2	635	46～118	16～70	5～16
溝3	644	(72)	9～(40)	

⑤ピット

第18表 浄禅寺跡遺跡第18地点ピット一覧表

単位cm

	平面形態	確認面径	底径	深さ
1	不整形	48×38	12×10	20.4
2	円形	30×26	10×6	27.9
3	円形	23×23	14×10	24.4
4	楕円形	28×23	7×7	42.8
5	円形	30×28	13×9	38.4
6	楕円形	24×22	13×5	26.7
7	円形	15×14	4×3	37.4
8	円形	32×26	16×13	30.6
9	楕円形	42×36	18×17	53.7
10	楕円形	54×42	28×10	52.3
11	円形	36×25	22×22	58.5
12	円形	22×19	10×6	24.6
13	四角?	34×28	20×8	50.6
14	四角	35×30	20×19	39.9
15	楕円形	48×42	18×16	61.2
16	楕円形	43×32	14×13	33.6
17	楕円形	40×25	6×6	37.9
18	楕円形	32×26	8×6	15
19	楕円形	54×34	24×12	20.6
20	楕円形	18×12	4×3	12.4
21	円形	16×13	5×4	14.5
22	円形	32×29	18×9	15
23	円形	26×25	11×10	13.6
24	楕円形	20×19	5×4	17.6
25	楕円形	36×26	6×6	37.6
26	円形	45×38	12×9	15.2
27	円形	43×36	13×9	46.6

⑥遺物

【炉穴出土土器】 炉穴1・3・4・6・8は出土遺物はない。炉穴5・7出土の細片若干を割愛した。

1と2は炉穴2覆土出土で、1は間隔のあいた撚糸文を縦位に施文し稲荷原式といえる。2は無文で指頭圧痕が残り、胎土に石英粉末と若干の金雲母を含み、阿玉台I b式であり、炉穴の時期は特定できない。

3と4は炉穴5出土で、共に胎土に多量の植物繊維を含み、3の表面には擦痕があり、4の表裏は磨減が

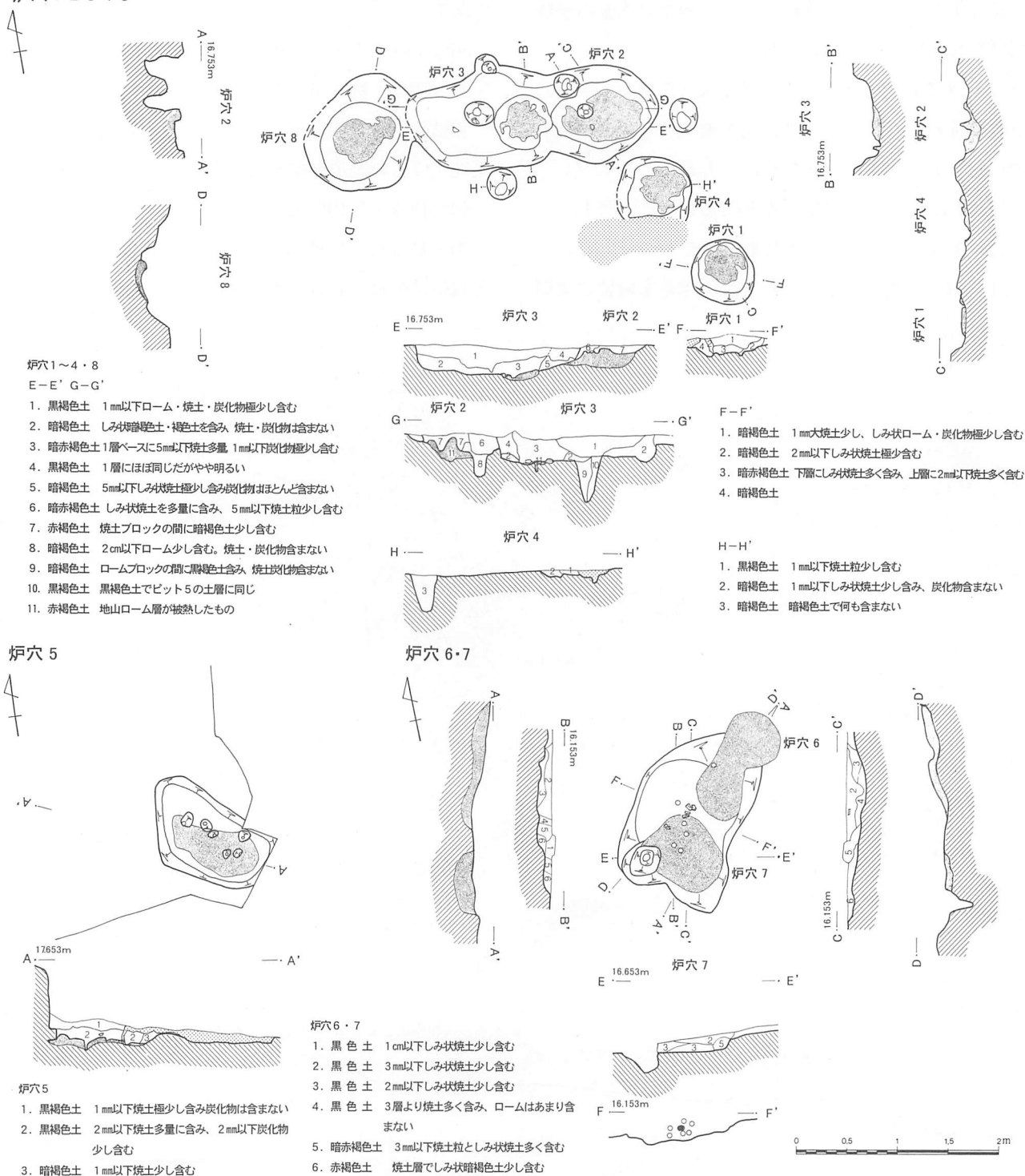
著しい。炉穴の時期は早期末茅山式である。

5は炉穴6出土の無文の胴下半部片であり、胎土に植物繊維を含む。早期末の可能性が高い。

6と7は炉穴7出土で同一個体であり、表裏ともに貝殻条痕文を縦位に施文し、胎土には多量の植物繊維を含む。炉穴の時期は早期末茅山式頃といえる。

【集石土坑出土土器】

8は集石土坑1出土で、無文の胴最下部片で胎土に繊維を含む早期末のもの。



第54図 淨禅寺跡遺跡第18地点炉穴 (1/60)

9～13は集石土坑2出土である。9は捺糸文の平縁口縁部片で体部文様帯のみで捺糸文の条間があく。稲荷台式か。

10～13は、胎土に大量の植物繊維を含み、11の表裏に貝殻条痕文が施文される。11～13は茅山式。

14と15は集石土坑3出土である。14は捺糸を縦位に施文するが条の間隔が広く稲荷台式といえる。15は口縁から胴へ密にRL縄文を施文する。加曽利E式後半。

【土坑・ピット出土土器】

16は土坑1出土で、擦痕のみで、胎土に大量の植物繊維を含む早期末の小片である。

17と18は土坑2出土で、17は沈線文を施文し胎土に繊維を含む黒浜式。18は細縄文を地文とし結節沈線を加え、胎土に金雲母を含む五領ヶ台式。

19は土坑3出土の縄文を多方向施文した中期末。

20は土坑4出土で、表裏に条痕文をもつ茅山式。

21～33は土坑5出土である。21は捺糸を縦位に条間

を広く施文した稲荷台式。22～25は胎土に植物繊維を多く含み、22と23は表裏に条痕文、24は表面に条痕文、25には擦痕があり、早期末のもの。

26と27は同一個体と思われ、細い粘土紐を貼付けた浮線文をもち、諸磯B式といえる。28は角押文を横位に5列施文し、胎土に金雲母を含まず中期初頭。29は沈線列を、30は斜縄文をもつ。31と32は地文縄文で磨消懸垂文を伴い、33はこの類の底部で加曽利EⅡ式。

34と35は土坑6出土で、34は無文口縁、35は捺糸文である。

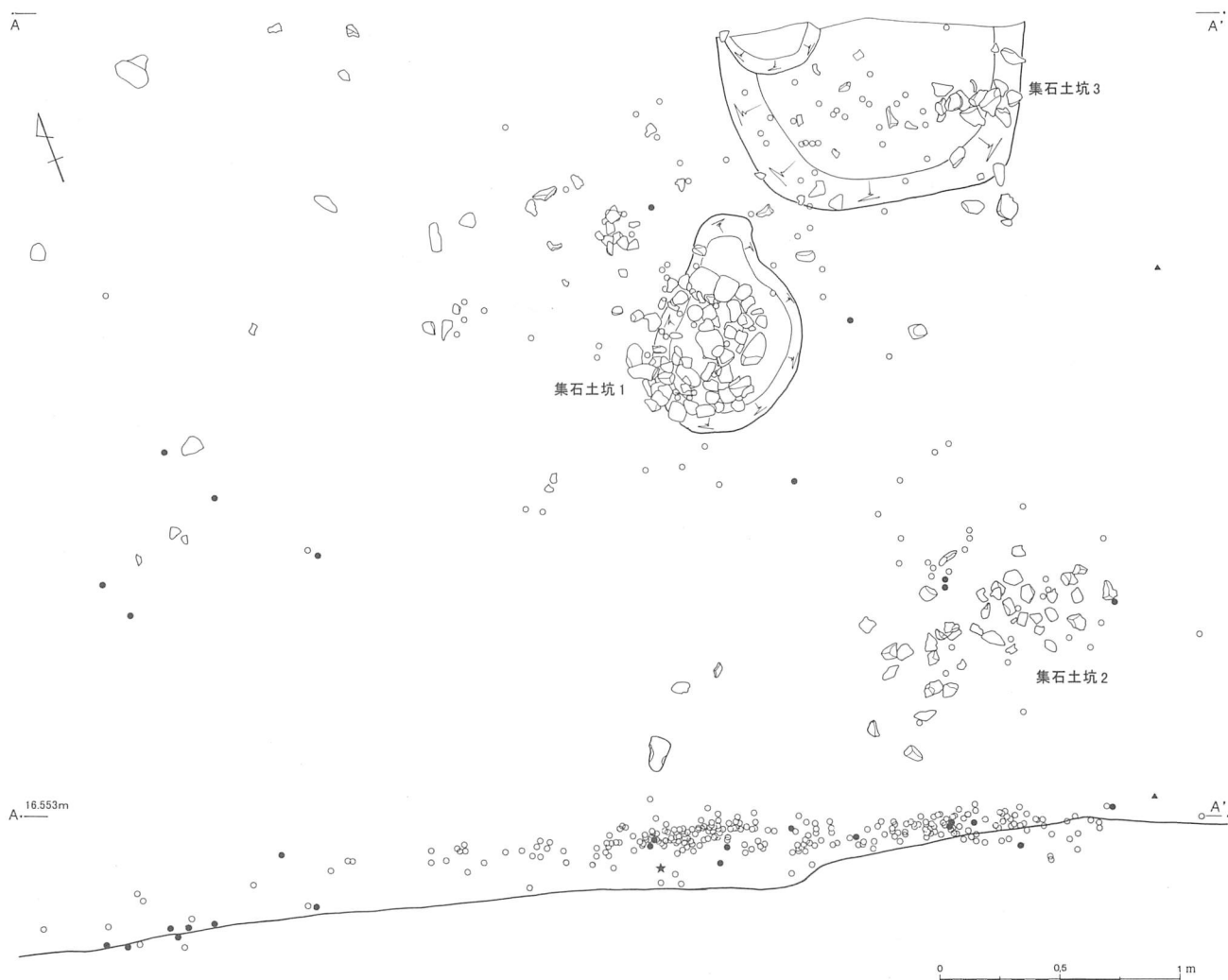
36は土坑7出土で、縦位の沈線で埋める中期末。

37～39は土坑8出土で、37は単節縄文をもつ前期。

38は胎土に金雲母をもつ阿玉台式の無文片、39は地文縄文で広い磨消懸垂文をもつ加曽利式後半のもの。

40～48は土坑10出土。

40～44は胎土に植物繊維を含み、41には条痕文・40と42には擦痕、44は単節縄文がある。45は地文縄文で



第55図 浄禅寺跡遺跡第18地点集石土坑 (1/30)

半截竹管端で刺突した爪形文がある。40～43は早期末、44は前期前半、45は諸磯A式。46と47は縄文のみの胴部片で、48は地文縄文で幅の広い磨消懸垂文をもつ加曽利EⅡ式。

49～54は土坑11出土で、49～52の胎土には植物繊維を含み、50は尖底部の破片で、51は単節縄文のみの胴部片。53は磨消懸垂文をもち54は地文をZ字状に残して大きく磨消。早期末・前期前半・中期後半～末と後期称名寺式の遺物を含み土坑の時期は不明である。

55は土坑12出土であり、条痕の痕跡があり胎土に植物繊維を大量に含み茅山式であるが土坑の時期不明。

ピットは、ピット1・27から各1点出土したのみである。56はピット1出土でL R縄文のみの胴部片。57はピット27出土で胎土に金雲母を含む。

【遺構外の土器】 遺構外出土土器のうち、繊維を含む小片・中期の地文のみの小片・無文の細片百余片を割愛した。

1～6は、第1文様帯のみの撚糸文で、1～3は密に、4～6は条間が狭く、胎土に乳白色微砂粒を含み黄～暗褐色を呈し焼成良好。1～3は夏島Ⅱ式に、4～6は稲荷原式に比定してよい。

7は、口唇の裏をそぎ薄め、外面に条痕文がある。8は表面条痕・裏面繊維に圧痕、9は表裏に繊維圧痕があるが、共に口唇上面に貝殻圧痕がある。10は沈線と条痕文をもつ。7～10は、胎土に繊維を含むが、その含有量は多くない。11～25は、表と裏の両面に条痕文をもつ類で、26～30は、表面または裏面の片面に条痕文をもつ。31～38は、擦痕文や条痕文に繊維を押圧したもの。11～38が胎土に含む繊維の量が最も多い。

39は羽状縄文をもつ口縁部片で、40～48は、素撚りまたは単節の縄文をもち、胎土に繊維を含む類で、関山式1点のほかは黒浜式であろう。49は、口唇に貝殻圧痕による刻目をもち、細い多重の隆帯上にも貝殻背圧痕がある。裏は横方向に整形し、胎土には若干の白色砂粒のほか、白色軟質物質を多く含む。東海地方の早期末の木島式の可能性が高い。

52は53～56と同一個体と思われる、単節縄文を横位に回転、胎土は緻密で茶色砂粒と白色微砂粒を含み外面には縦位に指頭による整形痕があり、暗褐色を呈する。口径26.7cmの鉢に復原しうる。

57は、地文縄文で波状沈線がある。58は半截竹管状工具の内面で沈線文を施す。59と60は無文で内面には煤の付着が著しい。

61は浅鉢で、口唇内側に文様帯があり隆帯上を半截竹管で刺突を施す。中期初頭。

62は隆帯と指頭圧を施す阿玉台式。

63は深鉢口縁部の渦巻文破片。64～74は、深鉢胴下半の磨消懸垂文を含む破片で、64～72は地文縄文、73は沈線と磨消懸垂文、74は地文条線を施す。いずれも加曽利EⅡ式。

75～77は、狭い無文帯下に沈線または微隆帯のほかは縄文を施文したもので、78は口縁部で縄文を施し、79～87はこの時期の胴部片。88と89は無文の口縁部片、90は沈線を、91～98は弧状に広く磨消しを伴う類で75～98は加曽利EⅢ・EⅣ式期のもの。

99と100は、細縄文を施文し、沈線間を磨消して、J字やZ字を描出した称名寺式の口縁と胴上部片。

101は、波状口縁の波頭部に渦巻文を入れた無文口縁で、ヘラ磨きなど研磨が著しい。

102は、口縁の裏と表に円形刺突文を入れる。

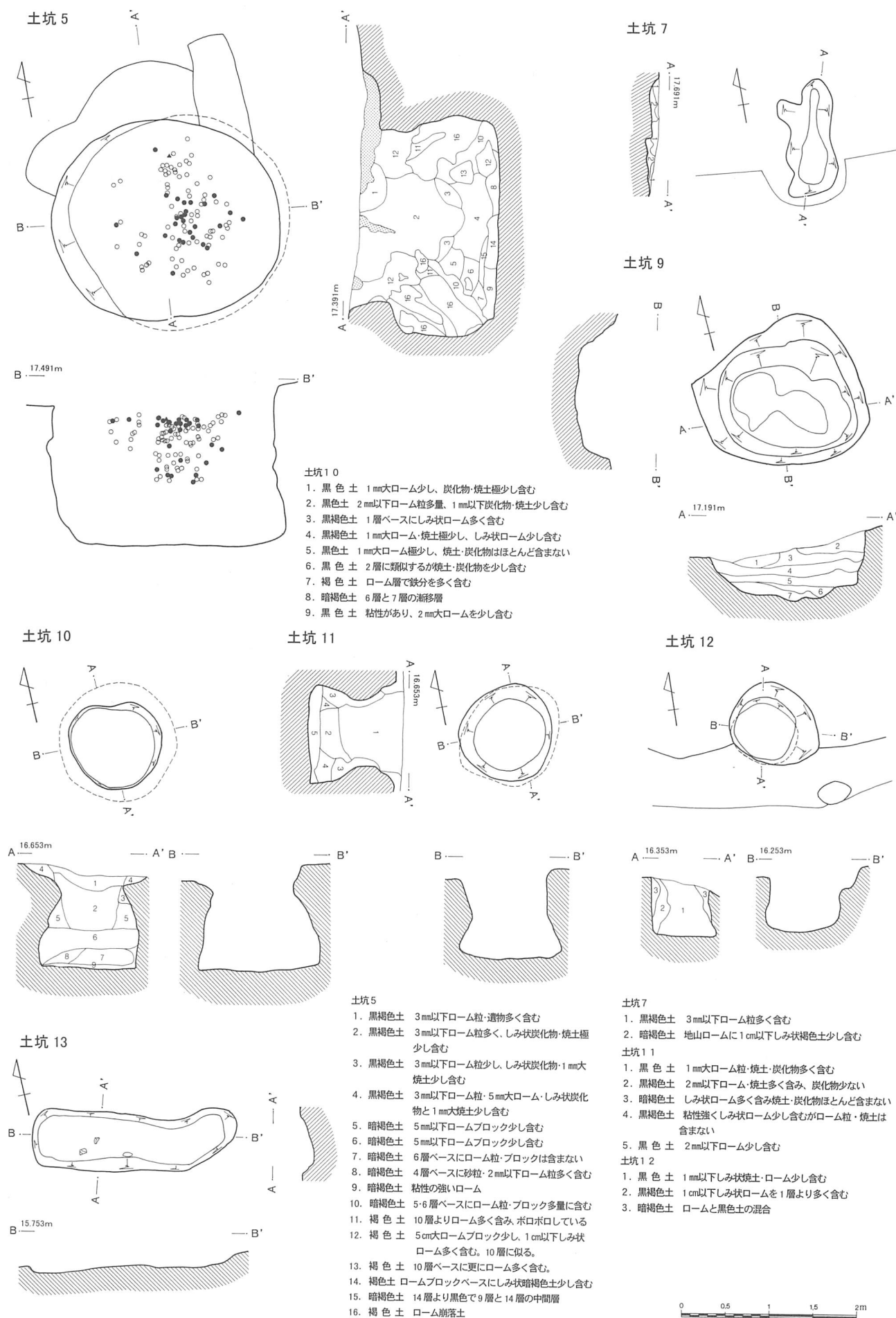
104は、細縄文を施文し沈線で三角形を描く。103は細い沈線で逆U字形と縦位の直線を描き、口唇内側に切込沈線を入れる。105は無文。103と104は堀之内Ⅱ式。106～109は底部である。

【石器】 1は、スタンプ形石器で、手にすっぽりはまる大きさで、使用面は半月形を呈し砂岩製である。786g。2は、撥型薄手の打製石斧で硬質頁岩製で50g。3は、脚部の一部を欠損する黒曜石製石鏃で0.92g。

【古式土師器】 4～9は甕形土器の破片で同一個体と思われる、外面には横位のハケ目が残し、内面には朱の痕跡がある。胎土には砂・乳白砂を含み明褐色を呈する。弥生時代末期というより古式土師器の可能性が高い。10は無文。

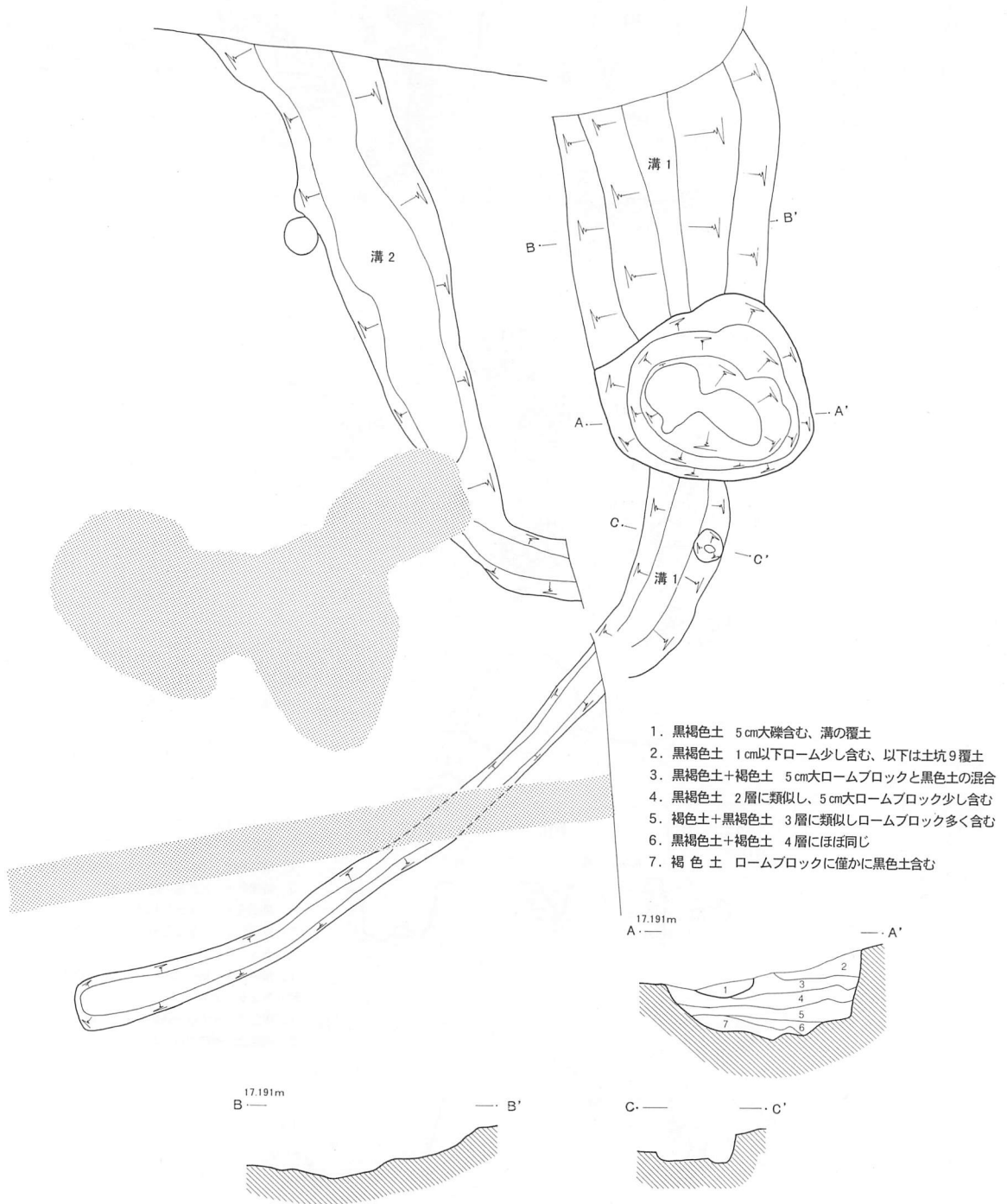
11は台付鉢の底部で、外面は無文。内面はヘラ磨きナデ調整され、鉄分ないしベンガラ朱が付着する。時期不明だが古代以降のもの。

12は泥面子であり、鎧武者をモチーフとしたもので型押し・型抜きで橙褐色を呈する。6.24g。

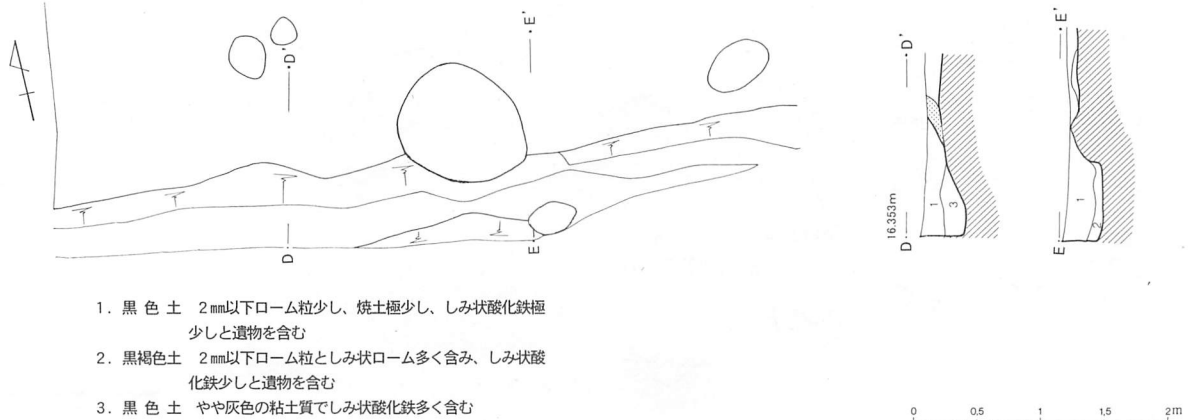


第56図 浄禅寺跡遺跡第18地点土坑 (1/60)

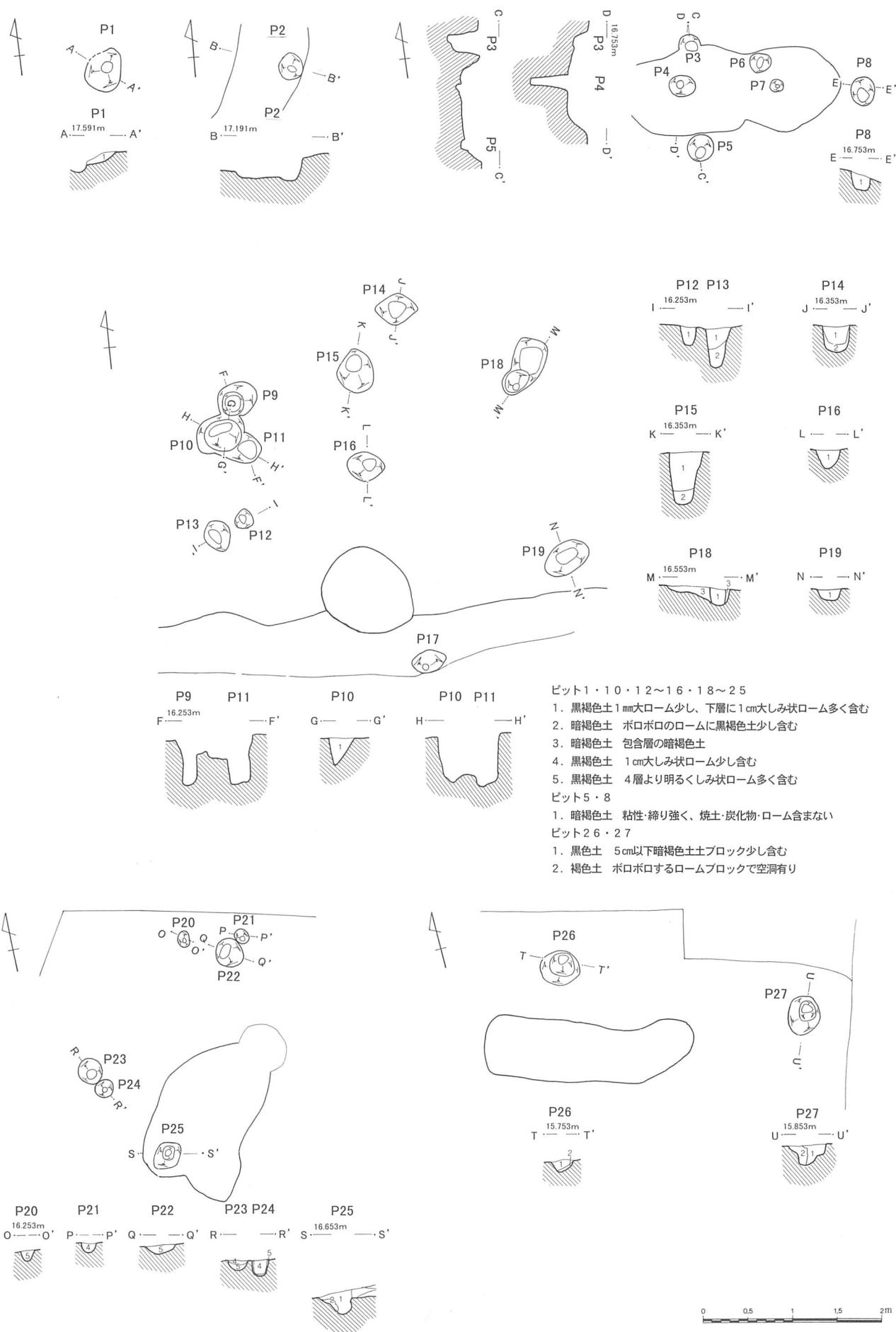
溝 1・2



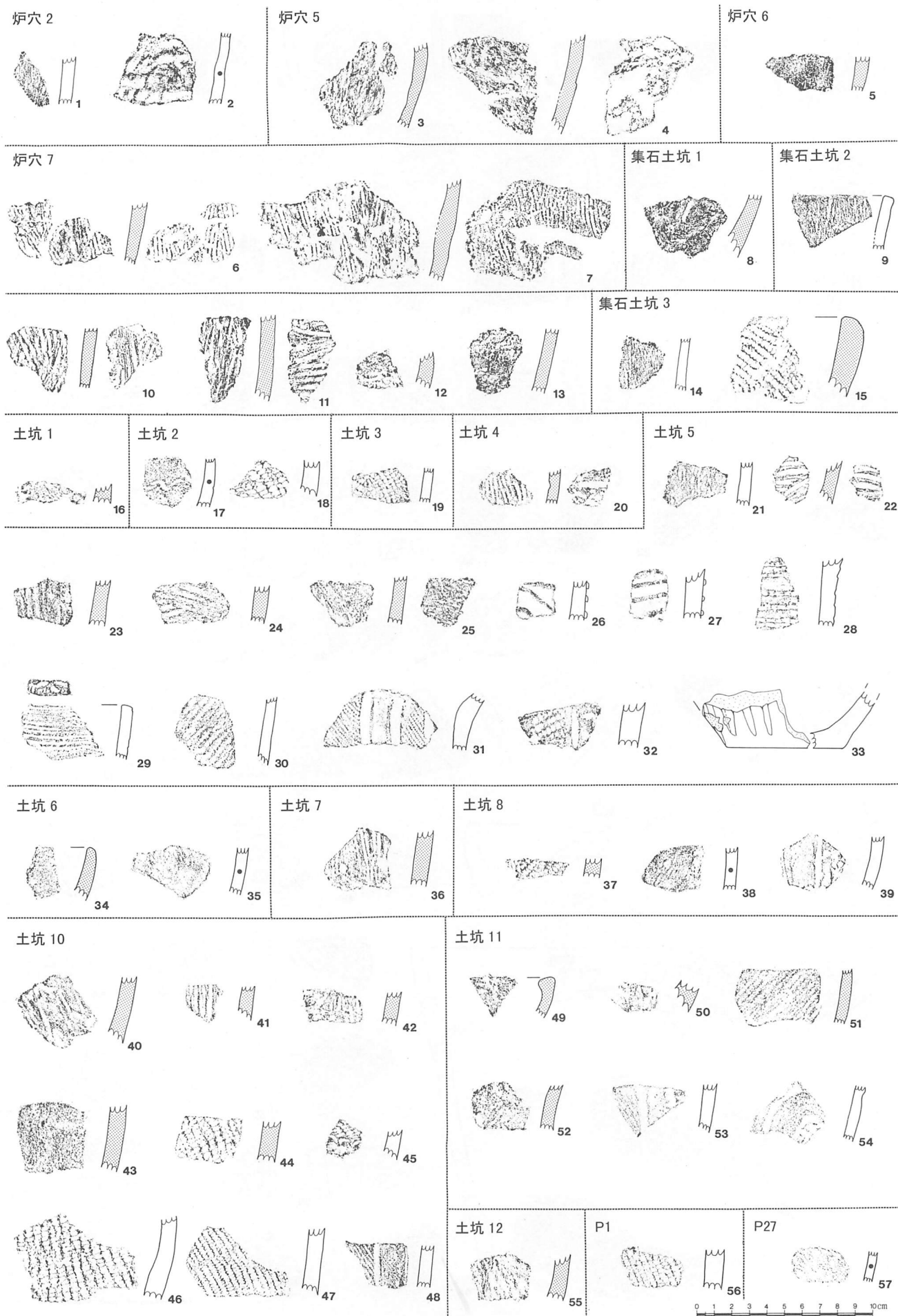
溝 3



第57図 浄禅寺跡遺跡第18地点溝 (1/60)



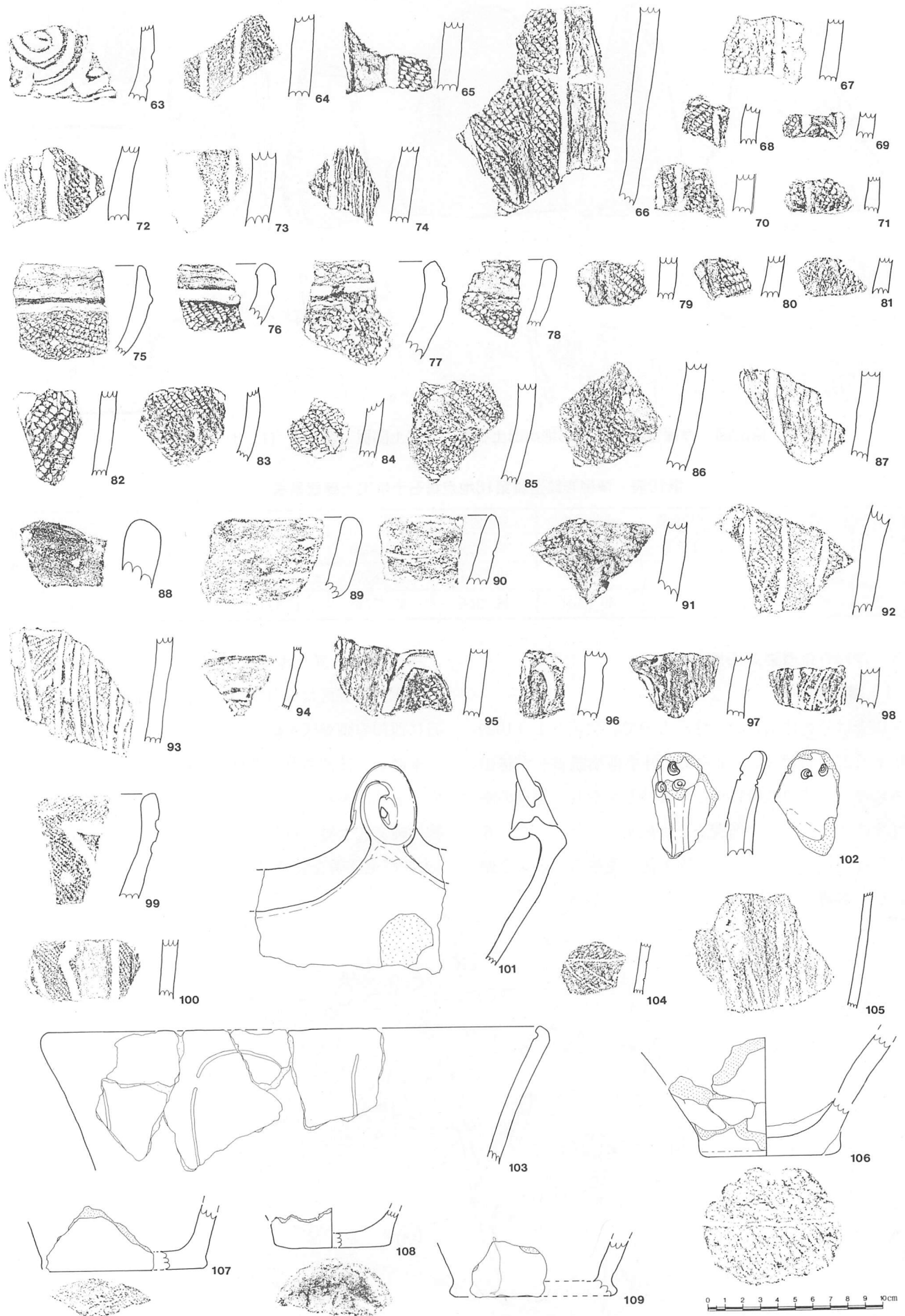
第58図 浄禅寺跡遺跡第18地点ピット (1/60)



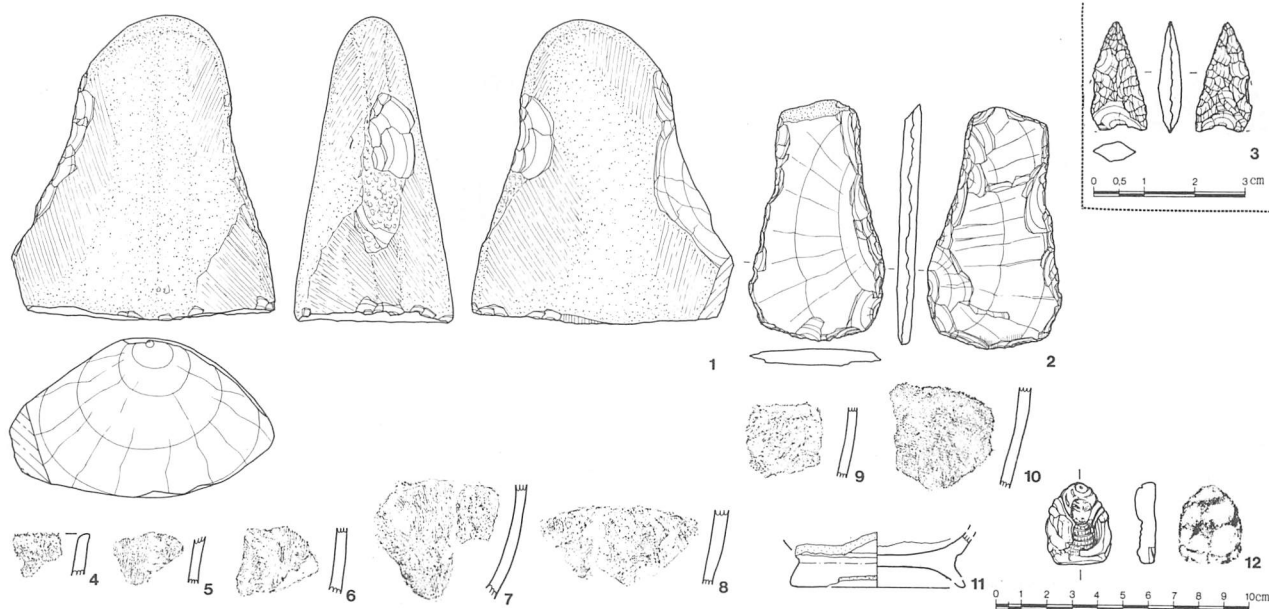
第59図 浄禅寺跡遺跡第18地点炉穴・集石土坑・土坑・ピット出土土器 (1/3)



第60図 浄禅寺跡遺跡第18地点遺構外出土土器① (1/3)



第61図 淨禪寺跡遺跡第18地点遺構外出土器② (1/3)



第62図 浄禅寺跡遺跡第18地点出土石器・古式土師器・泥面子 (1/3) (2/3)

第19表 浄禅寺跡遺跡第18地点集石土坑出土礫観察表

単位 g、(%)

集石No	総点数	総重量	平均重量	破損個数	完形個数	焼成個数	未焼成数	タール・煤付着数	タール・煤未付着数
1	91	15,948	175.3	52 (57.1)	39 (42.9)	86 (94.5)	5 (5.5)	12 (13.2)	79 (86.8)
2	70	5,710	81.6	51 (72.9)	19 (27.1)	60 (85.7)	10 (14.3)	6 (8.6)	64 (91.4)
3	58	4,716	81.3	40 (69.0)	18 (31.0)	45 (77.6)	13 (22.4)	4 (6.9)	54 (93.1)

3 浄禅寺跡遺跡第19地点

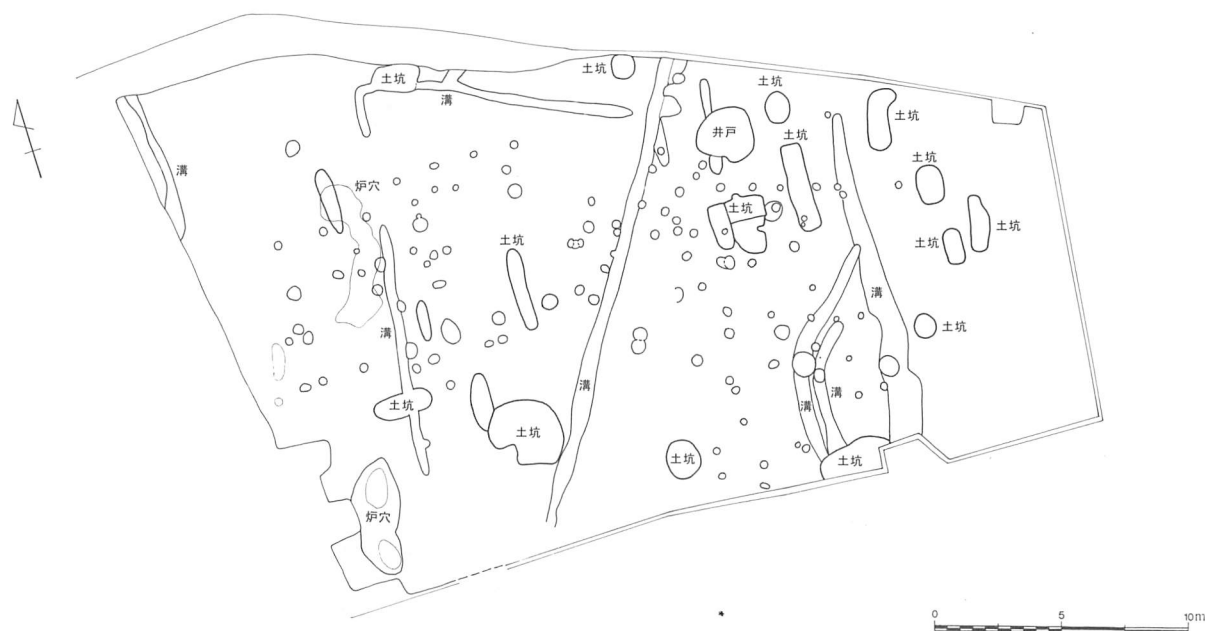
(1) 調査の概要

調査は分譲住宅建設に伴うもので、原因者より1999年6月25日付けで、「埋蔵文化財事前協議書」が提出された。申請地は第18地点と隣接しており、遺構の密度を確認するため試掘調査を実施することとした。8月3日から重機による表土除去後、遺構のプランを確認し、本調査を実施した。

本調査は土置き場の関係から東西に二分して行ない、東側調査区は8月28日から調査を開始し、9月14日に西側の調査区を終了した。

本調査で確認された遺構は、縄文時代から近世の炉穴・土坑・集石土坑・井戸・溝・掘立柱建物跡等、遺物は縄文式土器・石器・板碑等が出土している。

(大井町遺跡調査会で報告書刊行予定。)



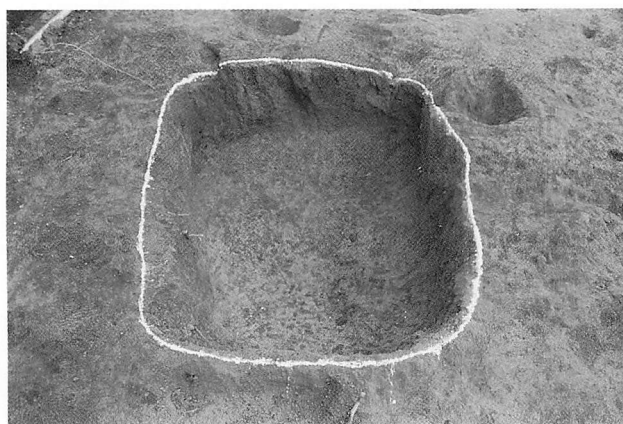
第63図 浄禅寺跡遺跡第19地点遺構配置図 (1/300)



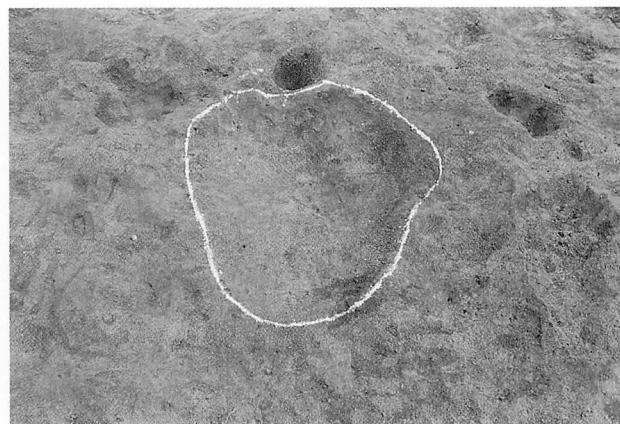
神明後遺跡第12地点近景



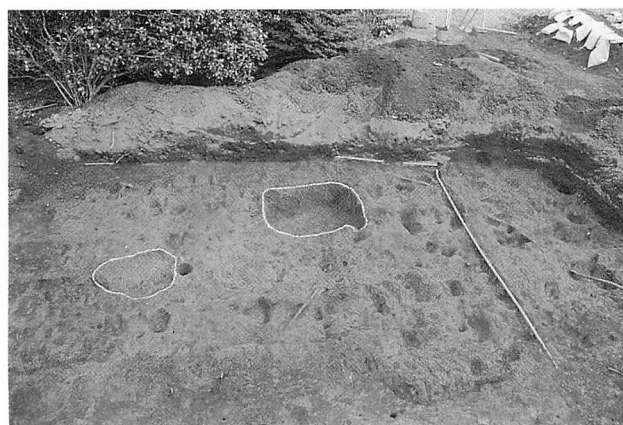
神明後遺跡第12地点近景



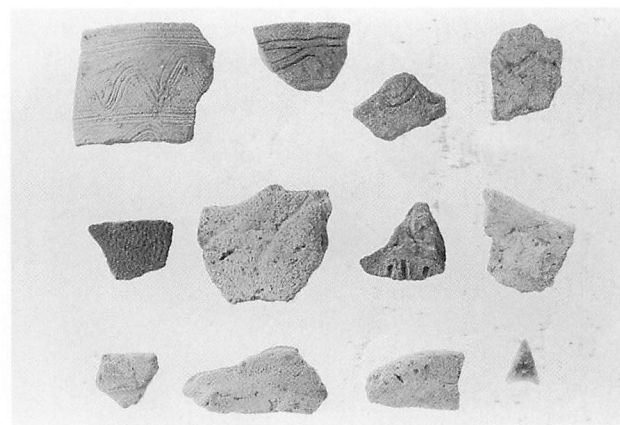
苗間東久保遺跡第21地点土坑 1



苗間東久保遺跡第21地点土坑 2



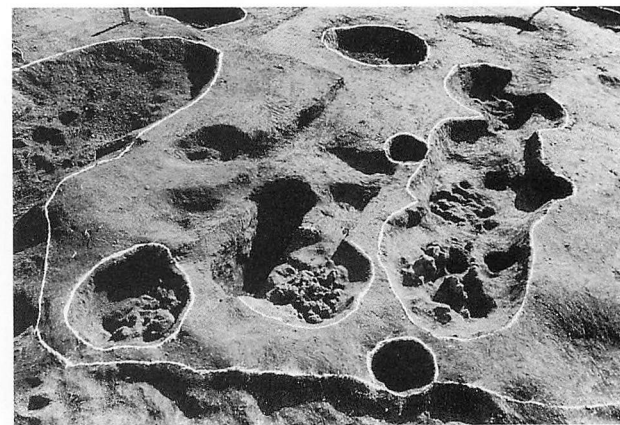
苗間東久保遺跡第21地点全景



苗間東久保遺跡第21地点出土遺物



浄禅寺跡遺跡第18地点近景



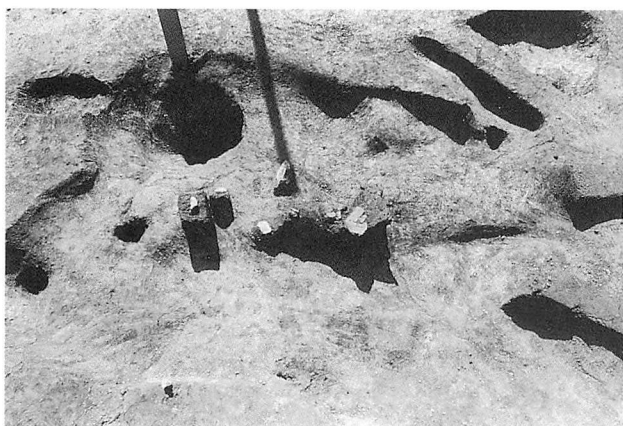
浄禅寺跡遺跡第18地点炉穴群全景



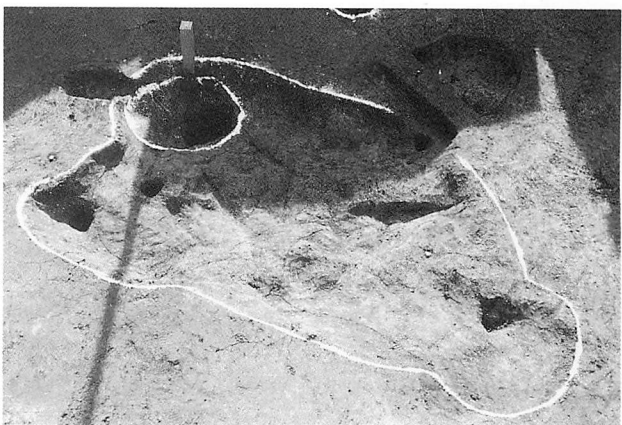
浄禅寺跡遺跡第18地点炉穴 2・4・8 (北から)



浄禅寺跡遺跡第18地点炉穴 2・3 (東から)



浄禅寺跡遺跡第18地点炉穴 6・7 遺物出土状況



浄禅寺跡遺跡第18地点炉穴 6・7



浄禅寺跡遺跡第18地点調査風景



浄禅寺跡遺跡第18地点集石土坑 1～3 (北から)



浄禅寺跡遺跡第18地点集石土坑 1～3 (東から)



浄禅寺跡遺跡第18地点集石土坑 1



浄禅寺跡遺跡第18地点集石土坑（南から）



浄禅寺跡遺跡第18地点調査風景



浄禅寺跡遺跡第18地点土坑 5 遺物出土状況



浄禅寺跡遺跡第18地点土坑 5



浄禅寺跡遺跡第18地点土坑 5 土層



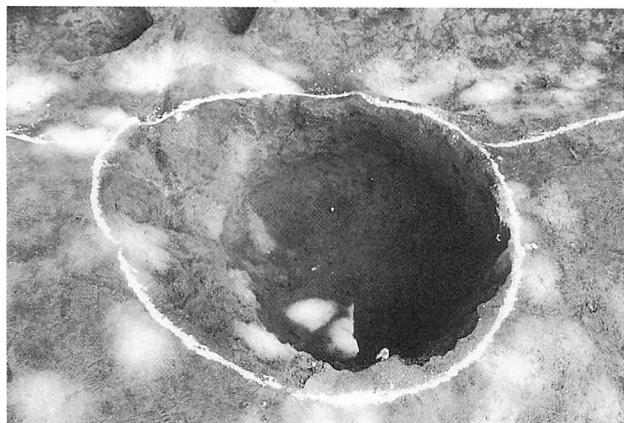
浄禅寺跡遺跡第18地点土坑 7



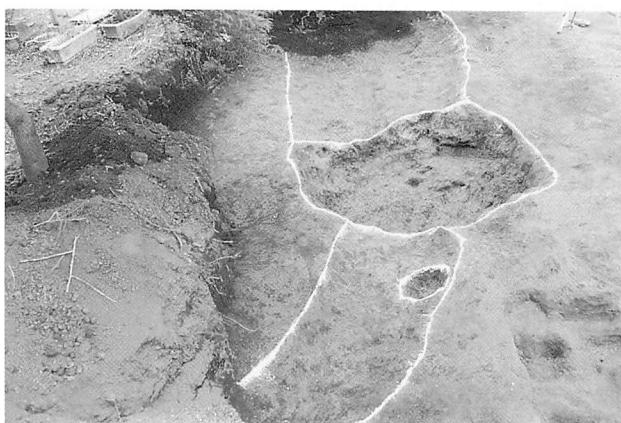
浄禅寺跡遺跡第18地点土坑 9



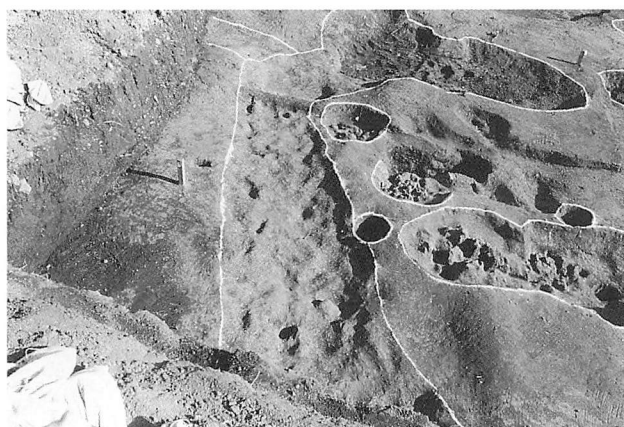
浄禅寺跡遺跡第18地点土坑10・11（西から）



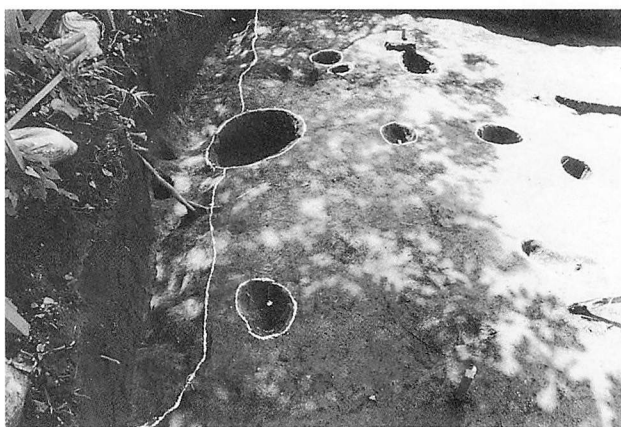
浄禅寺跡遺跡第18地点土坑12



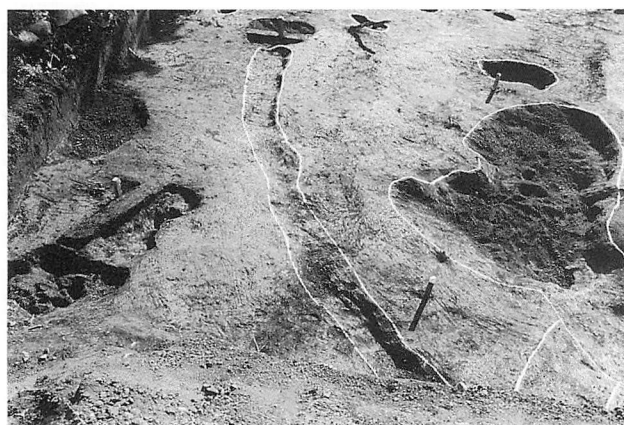
浄禅寺跡遺跡第18地点溝1（南から）



浄禅寺跡遺跡第18地点溝2（北から）



浄禅寺跡遺跡第18地点溝3（東から）



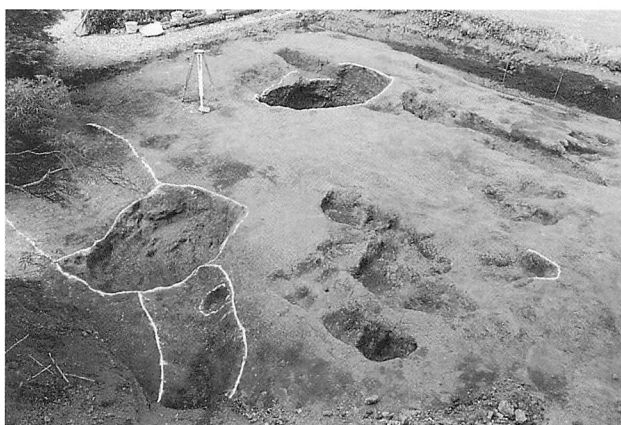
浄禅寺跡遺跡第18地点溝1（東から）



浄禅寺跡遺跡第18地点ピット9～11



浄禅寺跡遺跡第18地点スタンプ型石器出土状況



浄禅寺跡遺跡第18地点1区全景



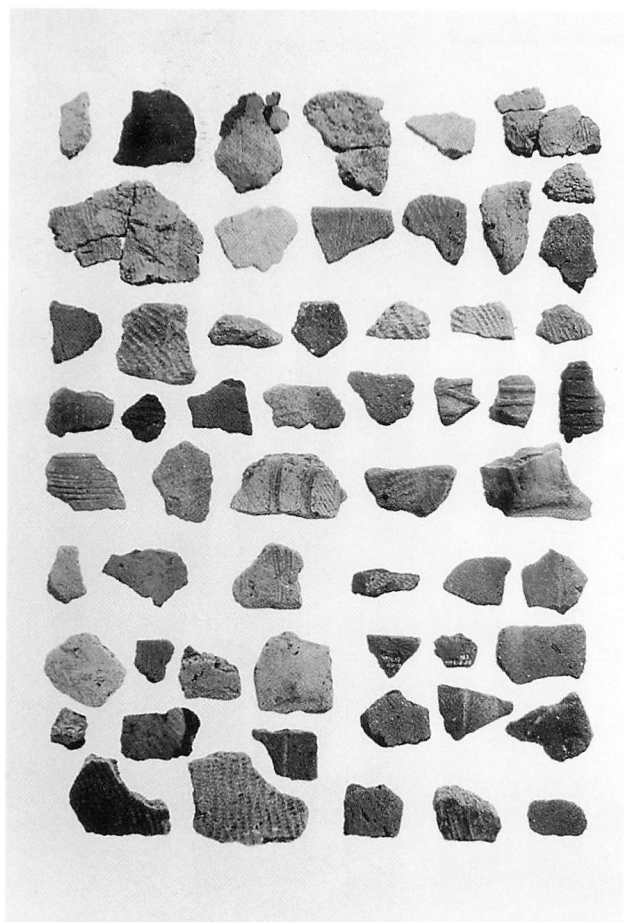
浄禅寺跡遺跡第18地点 1区全景（東から）



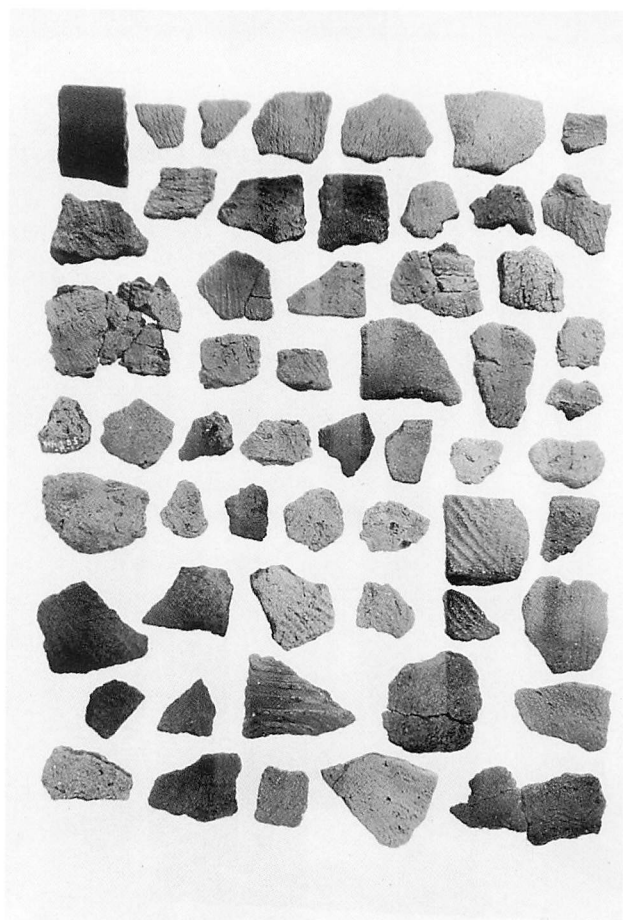
浄禅寺跡遺跡第18地点 3区全景（東から）



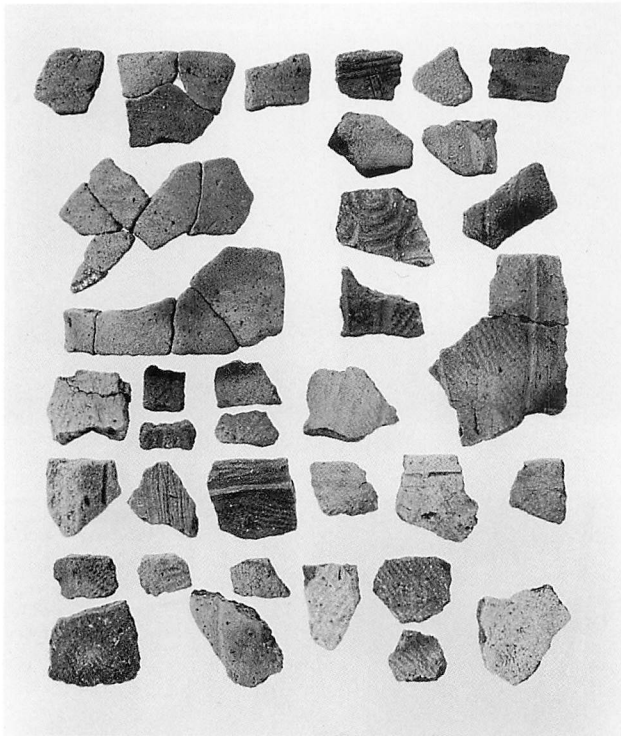
浄禅寺跡遺跡第18地点2区全景（西から）



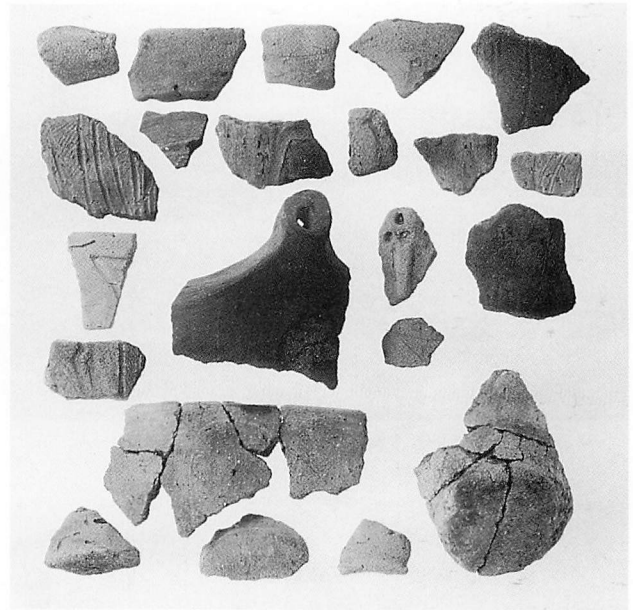
浄禅寺跡遺跡第18地点炉穴・集石土坑・ピット出土土器



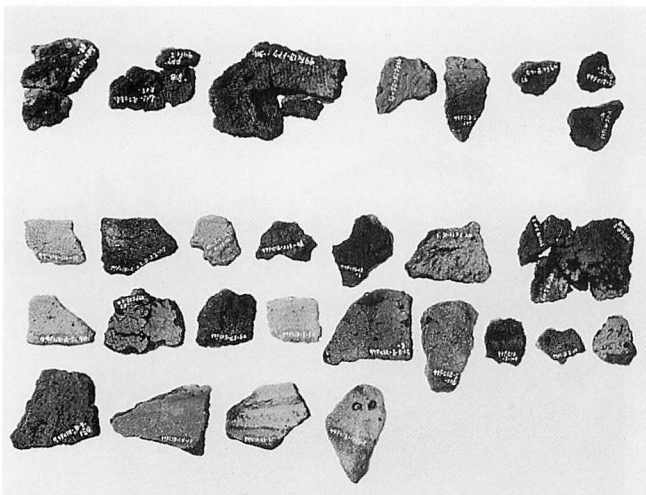
浄禅寺跡遺跡第18地点遺構外出土土器 (No1~51・53・57)



浄禅寺跡遺跡第18地点遺構外出土土器 (No52・58~87)



浄禅寺跡遺跡第18地点遺構外出土土器 (No88~109)



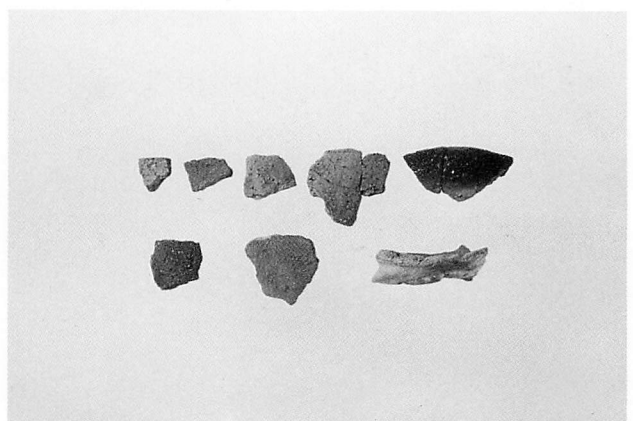
浄禅寺跡遺跡第18地点炉穴・集石土坑・ピット・遺構外出土土器内面



浄禅寺跡遺跡第18地点出土石器



浄禅寺跡遺跡第18地点出土石鏃・泥面子



浄禅寺跡遺跡第18地点出土土器 (古式土師器)